

# 青森県総合社会教育センター運営協議会（令和4年度第2回） 議事録（要旨）

## 1 日 時

令和5年2月24日（金曜日）10時00分～12時00分

## 2 場 所

青森県総合社会教育センター4階 第2教材開発室

## 3 議 題

- (1) 主な事業の令和4年度の実績と令和5年度の計画について
  - ① パワフルAOMORI！創造塾
  - ② 大学生とカタル！キャリア形成サポート事業
  - ③ あおもり家庭教育力向上事業
  - ④ ボランティア関係機関職員研修講座
- (2) 令和4年度青森県総合社会教育センター管理運営状況について  
(あおもり県民カレッジ運営事業を含む。)
- (3) その他

## 4 出席者

〔委 員〕（敬称略）

秋田委員、菊地委員、高橋委員、沼田委員、大山委員、渡辺委員、横山委員、小関委員、田中委員

〔県総合社会教育センター〕

赤尾所長、松谷副所長、葛西総務課長、副田育成研修課長、佐藤教育活動支援課長、大平総務課副課長、佐藤育成研修課副課長、阿部教育活動支援課副課長

〔豊かな学びを育む青い森グループ（指定管理者）〕

黒滝事務局長、八木澤主任

## 5 議事録

※議事に先立ち、所長より挨拶があった。

### 《案件(1)について》

※事務局より①、②の事業について説明

#### 【委員】

自分はパワフルAOMORI！創造塾（以下「パワフル」と表記する。）の卒塾生である。今後、塾生同士の縦の関係を作りたいという話だったが、卒塾生は1年間を通して実践してきたメンバーである。その後は、卒塾生が緩く繋がれる場があるのが良いのではと思っている。

結局、パワフルでは、卒塾生が講師を務めるにしても主体的にリーダーとなる人が大体講師になっている。しかし、事業を実施するに当たってはリーダーだけでやれるわけではなくて、必ずサポート役がいて、皆それぞれの得意分野があって、サポートする人がいてうまく回っていく。グループの取組なので、講師役はリーダーが良いが、それ以外のサポートが得意な人たちも活躍できるような、緩く繋がる場があれば良いと思っている。事業と異なり1年間で成果を出さなければならないという縛りもない。自分たちができることを地域で実践していけば良い。

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業（以下「キャリサポ」と表記する。）に

ついて、五所川原商業での企画を視察して感じたのは、フェイスシールドを感染症対策で付けているが、国の方針も変更されたので、受け入れ先の学校の要望もあると思うが、大学生がマイクもなく高校生 10 人くらいに話しており、なかなか声が伝わりにくい。来年度に向けて考えていただきたい。

また、キャリアサポは高校生と一番近い大学生が行っているので、大学進学に関する悩みとかそういった話をしていたのは良い。今後は 2 部構成のような、例えば 1 回目は高校生に大学生が話す。大学を卒業し、就職したキャリアサポ O B が、就職したらこう、大学生の時キャリアサポでこう話していたが、就職したらちがったというようなこともあると思う。大学卒業し、就職してすぐだと忙しくて、関わる余裕がないだろうから、緩く繋がれる形で数年後に仕事に余裕が出てきた頃に帰ってきて活躍できる場があれば、そういう人達を中心となって地域づくりの活動ができるのではないかと感じた。

キャリアサポは長く実施しており、昔と比較すると大学生がスキルアップしている。先輩が土台をつくり、その後に後輩達が続き、スキルの土台が高くなっていく、取組を継続していくことに意味がある。

#### 【委員】

パワフルの成果と課題について、実践活動に関して卒塾生との縦のつながりを広げることができなかったとあるが、実際、塾生はどういったことをつながりとして求めているのか教えていただきたい。

#### 【事務局】

塾生は、横のつながりを大事にする他、過去にどういうことをしていたのか、先輩達がどういう取組を行ってきたのかにも興味があるようだ。

例えば LINE で横のつながりを作り、情報共有や色々な取組や講座等、社会教育センター以外の所で情報をやり取りしているようだ。縦のつながりは各会・各期で会長を決めて、さらに会長同士が LINE でつながって、それぞれ縦のつながりがあり、各会から集まってくる情報を横に伝え合っている。社会教育センターがつながりのきっかけとなっているが、卒塾生の追跡調査は行っていない。もっと起業しているというような情報が入ると手伝ってみようかとか、それがきっかけでつながっていければということなので、来年度はそこ（SNS）に入ってみようかなと考えている。

#### 【委員】

卒塾生の方が起業だけでなく、例えばリーダーではなくとも色々な活動に携わっている方はたくさんいると思うので、そういう方たちが情報共有して、情報にたどり着けるような環境があると良いと思った。

キャリアサポについて、先程の意見にもあった継続しているということについて、本学の学生でも高校生の時にキャリアサポを体験したから、今度は自分がやりたいんだという思いで参加する学生もいるので、継続して、思いが伝わっていくというところは実現していると思っている。

来年度の事業に向けてだが、リーダーの更なる育成というところで、短大だと 2 年、大学だと 4 年という限られた期間の中ではなかなか難しいのではと思っているが如何か。

**【事務局】**

リーダーの育成といっても、キャリサポにおいて1年生はクルー（乗組員）、船長等、運営をする人達がリーダーとなるが、概ね2年生からリーダーになって、3年生になって語り手になって4年生でほぼ引退するという感じである。正味3年で終わるのが実態となっている。今年は、コロナの影響もあり、なかなかリーダーが育ちにくい状況ではあるが、4年生が次のリーダーを育てるため新しい運営の検討をし、キャリサポ連合という団体の中で4年生が頑張っって次期リーダーを育てているようであった。

**【委員】**

昨年度も中学校1校であったかと思うが、やはり高校生とは対応も異なってくるのではと思う。中学校で実施することになった経緯について聞きたい。

**【事務局】**

元々は高校だけの企画であったが、全国的にも、先進県であれば中学生、小学生の他、大人からその下へ伝えるというような企画を行っているところもある。本県も中学校をターゲットに取り組んで広げていければということで始まったが、例えば、大学生を学校まで送迎するバスにかかる費用について、高校では各校が負担しているが、大学生が乗るバスを市町村教委で負担することなど困難な場合もあるので、中学校の場合は1校という枠内で実施することとなった。当初は青森市内の学校から始め広げていった。確実に、毎年度1校ずつ実施し、可能ならば来年度は2校で実施できたら良いと考えている。

**【委員】**

パワフルについて、令和4年度の参加者で50代が1名となっている。平内町からは地域おこし協力隊を1名推薦したが、以前、年齢の関係で採用とならなかったと職員から聞いた、年齢の縛りはどのようになっているのか。

**【事務局】**

今回の50代の方は市町村の地域おこし協力隊であり、年齢については、概ね20代から40代くらいまでであるが、特に参加に意欲的だったので、当センター内で検討し採用となった。年齢に関しては今後見直すことが必要かと考えているが、年代に縛りをかけないと若い人たちがベテランに押されてしまうことも考えられるので、面談をして当センター内で検討して特例として認めている。

**【委員】**

職業については、市町村職員が地域おこし協力隊含めて10人ということだが、他の市町村職員は自主的に応募が来ているのか、お願いとかしているのか。

**【事務局】**

お願いしている状況である。周知して興味を示せば少し後押しするが、なかなか忙しうである。地域おこし協力隊は声を掛ければ対応していただいている。

**【委員】**

市町村職員の自主的な応募が少ないのは、どこも役場の職員が減らされており、その

影響で平日の時間外も多く、抱える業務も多くなっており、土日はゆっくり休みたいというのも原因の一つと考えられる。それでも、横のつながり、縦のつながりを続けていく必要があるので、人を集めるのは大変とは思いますが頑張っけて続けていただきたい。

キャリアポについて、多様な大学から登録いただいているという説明があったが、どういった大学が登録されているのか教えていただきたい。

#### 【事務局】

県内の全部の大学へ声掛けしているが、登録のない大学は2大学程であった。

保健大学、青森大学、弘前大学が多い状況である。特に弘前大学では教育学部等、教員を目指している方が多い。今後も登録されていない大学や県南の大学を中心に声掛けし、参加が少ない県南の高校へアピールできたらと考えている。

#### 《案件(1)について》

※事務局より③、④の事業について説明

#### 《案件(2)について》

※事務局より説明

#### 【委員】

家庭教育アドバイザーの養成は何年も実施していると思うが、アドバイザーになった方の地域での活躍の場をぜひ設けてほしい。私は青森市家庭教育サポーター連絡会で、家庭教育講座の企画・運営を行っている。ほぼボランティアに近い活動なので、スタッフが不足し、マンネリになっている。スタッフの中には、新しい養成講座を受けてアドバイザーとして何かやりたいと思っている方たちがおり、受講した方達が地域に戻って活躍する場があればと思う。

養成講座を受けたアドバイザーの活用先として、幼稚園、保育園、小学校に頼むことも必要だが、実際に地域で活動している団体とつなげていただくことをお願いしたい。講座を修了した方の中には、そういうところで活動している団体を作っている人たちが必ずいると思う。受講したことを生かす場がないのは残念なのでぜひお願いしたい。

当方のミスでもあるが講座を企画してチラシを社会教育センターにも配布した。その講座を情報誌に掲載して紹介をしていただいたが、問題を起こして、講師が急遽できなくなった。社会教育センターの情報誌に掲載されていることを知らない中で、その情報誌を見た方から講師についての指摘があった。情報を載せてくれるのはありがたいが、載せる時には必ず主催する団体に確認をとっていただきたい。

#### 【事務局】

アドバイザー養成講座を受講した方たちの活躍する場として、行政、福祉部局へ案内は手厚く行っているが、団体等とのつながりもしっかりと行い、団体にも周知して、受講した方の活躍の場の設定に努めていきたい。

#### 【事務局】

講座情報の掲載について、毎年行っている連携機関への調査の中で、講座情報を確認して掲載するか、確認なしの掲載で良いか選択することになっている。今後は確認後に掲載してほしいと回答した団体については、確認を徹底してまいります。

## 【委員】

キャリアサポについて、青森市を中心に活動が活発になっていることをうらやましく思う。八戸市ではこれほど手厚くやっていない。私はキャリアサポに非常に興味を抱いており、中学生から高校生は自分の将来について悩み、親からは不安な言葉が子供達に投げかけられ、子供はこれから自分がどういう方向に向かっていけばいいのか不安をかかえながら生きている。

そういう生活の中で大学生と斜めの関係で自分と少ししか変わらない年齢の若者からの意見は、中学生、高校生にとって非常にありがたいと思うし、親や先生に言われるよりも素直に聞くことができる力があると思う。

自分の住んでいる所は小学校2校、中学校1校である。このキャリアサポは綿密に大学生に色々な教育をしてから中学校や高校に行っているわけだが、キャリアサポの様にはできないので何かの方法で大学生や、先輩との話を設ける場を作ろうと考えたところである。中学校の校長先生等と話す機会があり、不登校の子たちが非常に多いということであった。身近に不登校の子どもや親を知っているの、学校に行かないで家にいるということが非常に危険であるから、そういったことを防ぐために来年度4月から、公民館等へ子どもたちを呼んで、また、別室にはその子どもたちの親を呼んで、親同士が話す場所、子どもたちがお互いに共感する場所、これからのことを子どもたちが考える力、親も考える力を育てることを地域でやろうと考えている。色々現状を見たときに何かしなければ、学校だけに任せるのではなく地域においても行動を起こす必要があると考えている。この会議でキャリアサポを勉強させていただいた結果、自分たちの地域で市の社会福祉協議会の支援も受けながらこれから取り組んでいくこととなった。

家庭教育アドバイザーについて、保育園にくる保護者の方々はどうやって子どもを育てていったらいいのか不安を抱えている人が多い。ネットからの知識はあるが、それが自分の子どもに当てはまらない場合もある。アドバイザーの話を直に聞くことで保護者の方が腑に落ちることがあるのではないかと感じた。こういう制度があるということをつくさんの人に知ってほしい。専門的な方から教えてもらおうと保育園としてもありがたい。親たちも新しい情報を得られる。もっとPRが必要。

## 【委員】

中学生、高校生のボランティア、大学生、社会人、市町村職員も含めて色々、個々に幅広い年代の人がいるので、高校生に対してはボランティア活動をみながら、可能性のある人には積極的に大学生となったときにキャリアサポを紹介し、キャリアサポを卒業した時にはパワフルを紹介し、広く声を掛けることが必要。地域に根ざした活動を実践していく人を育ててほしい。

## 【委員】

家庭教育アドバイザー養成講座の修了者として率直に感じたことであるが、コロナ禍の不安定な状況の中で13回も実施したことはすごいことであり、進行役として引き受けたアドバイザーの方々や、支えてくれた社会教育センターの職員を労いたい。

家庭教育アドバイザーを活用する場合は、「親楽プログラム」はこうあるべきだとか、こうしますよということではなく、参加者自身の気付きや、話を聞いてもらうことで安心するようなものでもある。

また、進行役は参加者の状況によって、ファシリテータ的な役割だったりモデリング

的な役割だったり会議的だったり非常に難しいところがあり、予期せぬ展開になる恐れもあり、進行役を引き受けるとなると演習しただけでも緊張し、周りの方に助けていただいたこともある。

アドバイザーも資格をとったら経験者の方々と縦のつながりの他、講座と一緒に参加してみるといった、アドバイザーの経験値を広げることが今後必要であり課題となっていく。チームで参加して活動を広めることをコツコツと行いながら、講座を活用しアドバイザーたちも勉強していかなければならない。